

経済学会第 600 回例会

2021 年 2 月 19 日 (金)

「設備年齢と技術進歩-日独企業データによる分析」

萩原 泰治

日本とドイツの企業データに基づき、設備年齢が短いほど生産性が高いという資本体化仮説の検証を行った。設備年齢について、ドイツに比べて日本の企業間の相違が大きく、2013 年以降日本の設備年齢が短くなったことが示された。生産性に及ぼす影響は、日独双方において有意であり、資本に体化された技術進歩が重要であることが示された。